

多賀城市災害対策本部からのお知らせ

平成23(2011)年8月22日(月)午前9時発表

多賀城市内の被害状況	
・死亡者	188名
(内訳) 男性	113名
女性	75名
・行方不明者	1名
・避難者数	68名
	(37世帯)

菊地健次郎市長から

今朝は大変寒い朝でした。明後日まで気温が低いとの予報も出ております。寒暖の差が激しいので、体調管理には十分留意して作業に当たるようにしてください。

大地震発生から5ヶ月以上が経過し、少しずつ落ち着いてきてはおりますが、まだまだがれきの処理など残っていることがありますので、職員にあつては、復旧に向けて適切に対応するようよろしく申し上げます。

市役所各部から

6階の相談窓口については、最大1日200件を超える相談件数がありましたが、減少傾向にあることから7月11日(月)から体制を縮小しており、現在は1週間で200件を切る相談件数となっています。

一番多い相談は、災害援護資金に関する相談です。

また、社会福祉協議会が行う「生活復興支援資金」については、これまで1,442件の申し込みがありました。

伊豆の国市から被災高齢者との交流事業の招待があり、8月24日(水)から3つの班に分かれて合計68人が参加することとなりました。伊豆の国市までは、伊豆の国市が送迎をしてくれます。

砂押川の堤防工事については、びっくり市から念仏橋までの間について9月末まで応急工事が行われる予定です。

宮城県仙台土木事務所のプランでは、もとの堤防の高さで復旧することですが、仙台港の防潮堤との関係から嵩上げが必要と思われるので、宮城県に対して早急に要望活動を行います。

本日まで市営住宅の補欠募集を行っております。例年は100件程度の応募がありますが、現在15件となっています。

夏休みが終了し、本日から2学期がスタートしましたが、夏休み中に大きな事故もなく過ごすことができました。

8月16日(火)に多賀城中学校において開催された劇団四季の公演には、729人が来場しました。

8月17日(水)から3日間、東北学院大学との連携により「多賀城スクール」(サマースクール)を開催したところ、合計320人が参加しました。参加者からは、「あと1~2日長く実施してもらえるとよかった」という声がありましたので、来年度以降に生かしてまいります。

8月14日(日)で文化センターの避難所を閉鎖し、総合体育館のみとなりました。

今後は、避難者の自立に向けた相談等を行いながら、避難所の閉鎖に向けてまいります。

仮設住宅入居者の8月10日までの1ヶ月の平均水道使用量および水道料については、次のとおりです。

差については、家族構成の違いによるものと思われます。

山王(46戸)	13.7トン	4,560円
高橋(39戸)	8.2トン	2,960円
城南(53戸)	11.4トン	3,910円
多賀城公園(163戸)	9.2トン	3,280円
テニスコート(23戸)	5.1トン	2,370円

水道水の放射能を測定したところ、仙南仙塩広域水道、仙台分水及び末の松山浄水場とも放射能の値は不検出でした。

史跡を活用した雇用の創出を図ることを目的として、8月18日(木)に社団法人多賀城復興まちづくり公社がスタートし、多賀城市に在住する15人の身体障害者が雇用されました。

JTBを通じて会社や団体が多賀城市内の被災状況を勉強するツアーが企画されており、8月20日(土)にダイキン工業の36人がホテルキャッスルプラザで研修を行いました。

会場では多賀城市の特産物の販売を行ったほか、JTBを通して参加者からの寄付もありました。

今後、400人ほどが同ツアーに参加する予定です。

行方不明となっていた女性が、DNA検査の結果によって身元が判明したことから、行方不明者は男性1名となりました。